

## 随筆

# 今では趣味を通り越した

(有) テイ・エムエンジニア

松堂 隆司

子供が始めた少年野球、今では大会があれば家族皆で応援さんまの日々。きっかけは今から遡る事6年前、真夏の厳しい暑さの中、当時5才の幼い長男が、従兄のお兄ちゃんとその弟と3人で地元の小学校の野球部に入部すると言って、小さなグローブを片手に、もう一方の手には自分の背丈に近い金属バットを引きずり3人で仲良く小学校グラウンドへ野球練習に通い始めた。

初めはどうせ2～3日も持てば上出来かなと思いながら送り出した。

一週間経っても練習に通う長男を不思議に思い、「こんなに暑いのにきつくない？、どんな練習しているの？、楽しい？、」と質問攻め、長男は一言「うん」！本当に楽しいのか自分にはまったく理解が出来ずそのまま見守ることにした。

練習に通い始めて二週間どう見ても辞める気配がない長男、もしかしたら野球練習以外に楽しい事があって辞めると言わないのか、不思議に思いグラウンドに行き様子をた。

そこでは炎天下の中大人でもきついのに、あの小さな体で高学年生の先輩達と同じように、マラソン、キャッチボールにノックと、下手くそながらもついて行く長男の姿にびっくり、顔は真っ赤で今にも倒れそうになりながらも大声出してボールを追いかける、まるで練習慣れしている様にも見えた。

休憩になると水分補給とウォータージャク（水筒）に向かって子供達が一目散に駆けつける、その姿は今にも押し潰されそうな程の勢い、その中に長男も先輩に負けじと駆け込み割込む姿は既に競争心が芽生えている気がして嬉しくなった。

私も小学校までは少年野球に通い、中学、高校ではハンドボール部に所属していて、中学の時には良い指導者に恵まれ県内では三本の指に入る程のチームでした。そのかい有ってスポーツ、勝負事に対しては人一倍関心が有り、長男がスポーツを始めた事で自分も経験したスポーツの厳しさ、楽しさを分かってくればいいなと思った。

グラウンドでは、子供達はもちろんの事、監督、コーチも猛暑の中、体を動かして一生懸命子供達を指導をしている、その姿には感謝、感謝で頭が下がる思いです。

その後も1ヶ月、2ヶ月と長男の一生懸命な姿に心を打たれ、私も何か係わらないといけないと思い、練習がある日には毎日グラウンドに足を運んだ、毎日来る私に対して指導者不足もあり、監督から一言「練習に入って指導してくれない！」

私は小学校までしか野球経験がなく、たまに同級生で草野球をするが、下手くそでルールすら解らない程のレベル、指導が出来るか分からないが、中に入り子供達と体を動かすと、昔を思い出したとて楽しかった。



何時しか子供達や監督と一緒に汗を流し行動する事で仲良くなり、コーチにも抜擢された、この頃から少年野球が私の趣味となった。

初めはコーチとして右も左も分からない事に戸惑いを覚え色々悩んだが、一日でも早く自分が一人前になって、チームの子供達にも自分が今まで経験したスポーツの楽しさ、厳しさを、勝つ喜びを教えたくて野球指導の本やルールの本、人の体験談を聞き勉強した。

3ヶ月も経てばボールの捕り方や投げ方、打ち方と基本な事だが少しずつ指導出来る用になってきた、しかし野球の技術を教えるのは難しい。

もっともっと子供達の為、チームの為に少年野球活動を知る為、どのようにして大会が開かれているのか、誰が運営しているのかに着目し、監督や父母の先輩方に尋ねた、すると私の地区には各小学校から13チームが集まり、そのチームをまとめる地区のブロック役員がいる事が分かった、役員になれば他のチームの役員も来るので、色々な話や大会運営を通してチーム以外の経験ができると思い、監督に相談し役員として送り出してもらった。

役員になって初めての顔合わせも終わり、直に初めての大会運営、ブロック役員もコーチも新前の私に、丁寧に役割や運営方法を教えてくれた、本当に有り難かった。

初めての運営会議を終え、大変だと思ったら直に次の大会の話合いが開かれた、話に聞けば毎月1回ペースで大会が開催されるという、ここでも役員には感謝で頭がいっぱいである。

あれから6年も過ぎ、新前だった私も、チームでは技術指導や試合の采配も出来る様になり、ブロック役員では他のチームの新前役員を育てる様にもなった。

今では沖縄県軟式野球連盟支部学童部の理事にもなり、県大会や支部大会の運営をこなす日々が続いています。

長男が始めた少年野球、色々な経験と色々な人と出会えてとてもためになった。

これからも子供達が多くの大会に出て活躍出来る様に、日々がんばりたいと思います。

